

ガイアナ月間情勢報告（カリコム動きを含む）

（2020年5月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- 総選挙の再集計がカリコム監視団参加の下、開始されたが、予定の25日間では完了せず、6月中旬までずれ込んだ。グレンジャー大統領は、再集計結果を受け入れると強調。
- 新型コロナウイルス感染者が増加しており、政府は夜間外出禁止等の措置を延長した。
- カリコムは、新型コロナウイルス対策を協議するため、緊急首脳会合を開催し、域内での協力、共通の取り組みを協議。また、カリコム外交・共同体理事会（COFCOR）会合では、域外国・機関との関係を協議し、EUが資金洗浄ブラックリストにカリブ数カ国を掲載したことを批判した。
- 中国は、中国承認カリコム諸国との間で、外務副大臣級会合を開催し、新型コロナ対策等を協議。

2. 内政

（1）総選挙関連

- 1日、バロー＝ガイルズ西インド諸島大学講師を団長とするカリコム監視団3人がガイアナに到着。
- 4日、選挙委員会は、再集計作業を6日から開始すると発表。再集計作業はライブ配信される他、綿密な新型コロナウイルス予防措置が取られる。
- 4日付現地紙は、カーター・センターは監視団の派遣を要請していたが、新型コロナウイルス対策を理由に却下されたと報道。同センターは、その後も現地米大使館等を通じて要請を繰り返したが、15日、カレン外務大臣が現地米大使に最終的な却下の書簡を発出。
- 4日、グレンジャー大統領は、再集計を受け入れるとの声明を発表。
- 6日、再集計作業が開始されたが、初日は25投票箱（全体で2,339箱）の開票に止まった。現地米・英・加・EU大使は、作業開始を歓迎する声明を発表。
- 12日、選挙委員会は、再集計作業を加速させるため、新型コロナウイルス対策本部に作業チームを10から16に増やす許可を求めたが、19日対策本部は2チームのみの増加を許可。
- 17日、グレンジャー大統領は、再集計作業の会場を視察し、選挙委員会やカリコム監視団と面談、再集計結果は受け入れると強調。また、野党が第4選挙区

でミンゴ集計係官が与党票水増しを批判し、与党側は死亡したはずの有権者等の投票があると批判していることにつき、再集計の結果やその信頼性を述べることは時期尚早と述べた。

● 29日付現地紙は、選挙委員会は、当初5月30日までの25日間の予定の再集計作業を6月13日まで延長し、6月16日に再集計結果を発表すると決定したと報道。

(2) 新型コロナウイルス対策

● 1日、政府は夜間外出禁止等の非常事態制限措置を6月3日まで延長すると発表。

● 19日、政府は、米政府及び米軍が市民防衛委員会に対し、衛生用品等1万5千米ドル相当の支援物資を贈呈したと発表。

● 19日、政府は、中国のアリババ財団が3万枚のマスク、1,500強の検査キットを贈呈したと発表。

● 20日付現地紙は、外務省はコロナウイルス感染防止に関して、保健省等の関係当局は定期的に中国当局との協議を行っているとして発表したと報道。

● 21日付現地紙は、大統領警護官の内、5人の感染が確認され、隔離検疫中と報道。

● 28日、グレンジャー大統領は、感染が収束するまで夜間外出禁止措置を継続すると発表。

● 28日、政府は、対策本部が4段階に分けての空港再開を検討していると発表。

● 29日時点で、感染者は150人となり、増加を続けている。

(3) その他内政

● 16日付現地紙は、4月に政府が契約を結んだと報じられた米国ロビイスト企業に、今度は連立与党が総選挙関連対策の契約を締結したと報道。

3. 経済

● 9日、政府は、EUの資金洗浄ブラックリストからガイアナは除外されたと発表。

● 28日付現地紙は、パターソン公共インフラ大臣は、2.2億ドルのマバルマ太陽光発電所は月末までに稼働すると述べたと報道。

● 29日付現地紙は、ガイアナ金鉱社の今年第1四半期の金生産量は、2万8千オンスと前年同期比で23%減少したと報道。

4. 外交

● 7日、外務省は、カミングス外務大臣は、米、英、加、EU大使と会談し、総選挙再集計作業につき協議し、同大臣は国際監視団の参加は選挙の正当性と透

明性検証のために効果的な手段、信頼出来る選挙結果を迅速にかつ透明性ある形で生み出すことを期待すると述べたと発表。

- 7日付現地紙は、新型コロナウイルスの影響下、少なくとも10人のガイアナ人が職を求めてブラジルに不法入国し、拘禁されていると報道。
- 12日付現地紙は、ガイアナに滞在するベネズエラ人は、ベネズエラ大使館の支援があっても、ベネズエラに帰国する意図はないと述べていると報道。
- 30日付現地紙は、外務省は、延期されていた国際司法裁判所でのガイアナ・ベネズエラ国境紛争案件の口頭弁論が6月30日にビデオ会議で開催されると発表したと報道。

5. カリコムの動き

- 1日、モトリー・バルバドス首相（カリコム議長）は、ガイアナ総選挙再集計へのカリコム監視団員3人が同日ガイアナ入りする、再集計は信頼性、透明性ある形で遅滞なく実施されなくてはならない、本件監視団派遣へのカナダの支援に感謝するとの声明を発表。
- 5日、第10回カリコム緊急首脳ビデオ会合が開催され、新型コロナウイルス対策が協議され、この地域で新型コロナウイルス感染拡大防止状況を歓迎し、各種制限措置の緩和基準、医療品調達協力、農業食料安全保障行動計画等が議論された。
- 6日、第50回カリコム貿易経済開発委員会（COTED）が開催され、コロナ禍からの加盟国の経済再開戦略を承認。
- 7～8日、第23回カリコム外交・共同体理事会（COFCOR）ビデオ会合が開催され、国際機関選挙への対応、域外国・機関との関係、EUの資金洗浄ブラックリスト、加盟国の領土問題、選挙監視団等を協議し、共同声明を発出。
- 8日付カリコム紙は、チトキ・アフリカ・カリブ・太平洋諸国機構（OACPS）事務局長は、7日EUが資金洗浄ブラックリストにいくつかのアフリカ及びカリブ諸国を追加したことを非難したと報道。
- 11日、中国と中国承認カリブ諸国の間で、新型コロナウイルス対策に関する外務副大臣級会合が開催され、ゼン中国外交副部長とダルー・ドミニカ外務大臣が共同議長を務め、共同声明を発表。
- 13日、OAS常設理事会会合で、カリコム・グループは、バルバドス大使が代表して、ガイアナ総選挙に関して、集計時に不規則な行為が行われたと報告。
- 18日、アフリカ・カリブ・太平洋諸国機構（OACPS）、カリコム及び太平洋フォーラム（PIF）事務局長会合が開催され、新型コロナウイルスの経済、社会的影響及びその対策につき協議された。カリコムはラロック事務局長が出席。
- 18日付スリナム紙は、同日同国総選挙へのカリコム選挙監視団（団長：ジェ

ームス・セントビンセント選挙監視官)が現地入りしたと報道。21日付カリコム紙は、同監視団は、ポラック＝ビゲリ外務大臣を表敬訪問したと報道。

●19日、カリコムは、7日EUが資金洗浄ブラックリストにカリコム4カ国を掲載したことを強く批判する声明を発出。

●21日付カリコム紙は、モトリー・バルバドス首相(カリコム議長)は、トルドー・カナダ首相と電話会談し、コロナ禍の状況や対策を協議し、協力を強化していくことで一致したと報道。

●26日付セントビンセント紙は、在キューバのカリコム諸国大使館は、キューバに居住するカリコム留学生700人以上に対し、マスクを配布することを準備中と報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。